

公開講演・シンポジウム

# 「アカデミック・インパクト」

—研究者はいったい何ができるのか?—

日時 平成24年6月2日(土) [受付12:30より]

場所 岡山大学津島キャンパス  
創立五十周年記念館 **入場無料**

## ◆10周年記念特別講演:13:00~14:30

### 「地震・津波・原発,そして教育 ~私たちにできること~」

■講師: 高嶋哲夫先生(岡山県玉野市生まれ。日本原子力研究所(現・日本原子力研究開発機構)を経て作家に。研究員時代に原子力学会技術賞、小説でサントリーミステリー大賞、小説現代推理新人賞、北日本文学賞など受賞。)

■内容: これまで「地震・津波・原発」について知っておくべきこと、できることを小説や新書という形を通して描き、防災・減災の必要性を訴えてきた筆者が、東日本大震災の教訓をふまえ、今後の日本と社会活動のあり方について講演します。



## ◆10周年記念特別シンポジウム:15:00~17:00

### 「"サービス"に対するアカデミズムの役割」

■パネリスト: 佐野(藤田)真理子(広島大学大学院総合科学研究科 教授)  
「アクセシビリティ支援・教育とリーダー育成:持続可能なUD社会を目指して」

仲真紀子(北海道大学大学院文学研究科 教授)

「認知心理学・発達心理学を活かした司法面接—その開発と訓練—」

寺澤孝文(岡山大学大学院教育学研究科 教授)

「欲求と情報の帯で教育・ビジネス・学術を結びつける」

■コメンテーター: 高嶋哲夫(前掲)

■内容: 最近「独創的なサービスを!」という声をビジネスの分野でよく耳にします。一方、公的分野でも既に大小様々なサービスが展開されており、原発もその一つです。ところが、それらはそれぞれ限られた領域で【コマ】のように独立し、相互に影響力を行使できないしくみになっています。それに対して、学術が核となり、一見関係のないサービスをつなぎ、融合・拡張することで、新たな人の欲求を生み出すシステムが生まれています。その最新の事例を紹介します。

本イベントは、どなたでもご参加頂けます。

事前のお申し込みがなくても、当日受け付けますが、できるだけ、予め裏面記載の事務局へFaxかE-Mailでお申し込み頂きますようお願いいたします。

お申し込み頂ければ、来場者が多くなった場合でも、お席を確保いたします。

主催: 日本認知心理学会

共催: 岡山大学、科学研究費補助金 基盤研究A「縦断的大規模調査法を基礎とした因果推定研究の創出」

後援: 岡山県教育委員会、岡山市教育委員会、山陽新聞社、大学コンソーシアム岡山